

海老名市立柏ヶ谷小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第3回)

- 1 日時** 令和8年2月11日(土) 10:00~12:00
- 2 場所** 海老名市立柏ヶ谷小学校 会議室
- 3 出席委員** 山崎久男会長、大矢和正委員、森山輝男委員、森田博明委員
羽太勇委員、松本孝夫委員、萩原正規委員、鈴木佳子委員、
藤原絵里奈委員、小林麻衣委員
石井友紀(校長)、高橋一子(教頭)、青山明裕(教務主任)

4 協議の内容 (進行: 青山教務)

(1) 校長挨拶

石井校長: 今年度最後の運営協議会となるので、子どもたちの様子を振り返りつつ、令和8年度に充実した教育活動ができるよう皆様からご意見を伺いたい。

(2) 会長挨拶

山崎会長: 先日雪が降った。この会は今回が区切りとなるが、学校にとって、雪が降り積もるように、よいことが重なることを願いつつ会を進めたい。

(3) 協議 (司会: 山崎会長)

① 学校の様子について

石井校長: 子どもたちは今年度のまとめと、来年度の準備をしている。市内ではインフルエンザが流行っているが、本校ではあまり流行っていない。業間休みには、縦割りグループに分かれて大縄をしている。1~6年生が一緒にやるので、上手な子を真似して跳んだり、跳ぶタイミングを教え合ったりしながら、失敗しても励まし合って跳んでいる。6年生は卒業式を控え、中学校生活に思いを馳せつつ小学校生活のまとめをしている。

萩原委員: 子どもがけがをした時、上級生が助けてくれた。日頃縦割り活動をしているおかげで、学年の垣根を越えて助ける気持ちが芽生えている。雪が降った翌日、坂道が凍っていた。滑りそうで危険だった。今後も、滑りそうな場所では特に気を付けるよう歩き方を指導してほしい。

② 学校評価アンケートの結果分析について

石井校長: 昨年は保護者の回答率が30%台だったので結果の信憑性が低かったが、今年度は60%を超える回答率だった。最も大事だと考えている、児童への「学校は楽しいですか」という質問、保護者への「子どもは学校へ楽しそうに行っている」という質問で、肯定的回答が90%を超えた。今後も「学校が楽しい」と思ってもらえる学校づくりをしていきたい。「掃除を一生懸命にしていますか」という児童への質問と、「学校の施設・設備は管理され整っている」「校舎内外の清掃はゆきとどいている」という保護者への質問に関しては、最初の頃は肯定的回答がとても低かった。本校は校舎が古いため故障している箇所も多いが、一生懸命校内を

きれいにする努力をしてきた。

青山教務：いつか使うだろうという物を残しがちだったので断捨離して整頓した。

高橋教頭：「まだ使えるからもったいない」という気持ちで残していた物を精査して捨てた。子どもたちも縦割りで掃除をすることになったおかげで、以前より一生懸命掃除するようになった。職員も、年に3回大掃除をして整頓された状態を保持できるようにしている。

石井校長：保護者への「学校は、子どものことで相談に適切に応じている」という質問に対し、90%を超える方に肯定的回答をいただいた。教育支援コーディネーターの職員を中心に全職員が保護者の相談を聴こうと努力をしているところである。まだまだ物足りない部分はあるが、引き続きやっていきたい。ただ、子どもへの「困ったことがある時には、誰かに相談していますか」という質問に対する肯定的回答が下がっており、3割近い児童が、困った時に誰かに相談できる状況にないという回答をしている。大きな課題だととらえている。教員からは「自分たちに相談しやすい雰囲気がないのかもしれない」という反省も出ている。子どもからの小さな相談にも誠実に対応し、相談してよかったと思える経験を積んでいくことが必要だと考える。自分からはどうしても相談できない児童もいるので、児童の様子をよく観察して教員から声をかけることにも取り組んでいきたい。読書については、今年度も肯定的回答が下がった。授業中に読書の時間を確保することは、高学年になればなるほど難しい。また、休み時間には外遊びをする児童が多いので、図書室に行く児童が少ない。読み聞かせをしたり、継続的に朝読書の時間を設定したり、低学年の段階で読書する習慣をつける努力をしたい。

松本委員：「放課後、友だちとよく遊びますか」という質問に関して、肯定的な意見が6割程度である。自分たちが子どもの頃はほとんどが遊んでいたと思うが、4割の子どもは遊んでいないということになる。学校としては遊んでほしいと思っているのか。

石井校長：遊んでほしいと思っている。放課後の「あそびっ子」への参加率は市内でもずば抜けて高い。「あそびっ子」に参加しない子どもは塾や習い事に行っていると思う。また、学区の形状として、柏ヶ谷地区と東柏ヶ谷地区が離れていて、行き来するのが難しいのではないかと思う。

藤原委員：子どもたちは、保護者がいない家庭には上がれないので、コミセンや北部体育館等の施設で遊ぶことになる。しかし、住んでいる場所が離れていると集まりづらいようだ。

松本委員：学校は校庭を開放しているのか。

石井校長：している。

鈴木委員：授業が6時間目まであったり習い事があったりすると、放課後に友だちと遊ぶ時間をとるのは難しい。また、「あそびっ子」に行っても、帰宅するところには交通立哨員さんがいなくて危ないと感じることもある。

- 大矢委員：下校の見守りをしている時、低学年はきちんと挨拶をしてくれるが、高学年は知らんぷりの児童が多い。挨拶が返ってこないと寂しい。
- 森田委員：朝の立哨をしているが、挨拶はなかなか返ってこない。10人に一人くらい。地域に溶け込もうと思ったら、まずは挨拶をしてほしい。
- 山崎会長：子どもたちには、知らない人に声をかけられたら警戒するようという指導をしていると思うが、挨拶されたら会釈ぐらいはするような指導をしてほしい。
- 松本委員：「学校は楽しいですか」という質問で、学校が楽しくないと感じている子どもが10%くらいいる。いじめが原因で楽しくないと感じている子どももいるのではないか。学校はそういうことを把握できるのか。
- 石井校長：今回のアンケートとは別の「学校生活アンケート」を学期に1度とっている。困っていることを回答できるようにしている。気がかりな回答があれば、直接話をして解決できるようにしている。楽しくないと回答した児童には何らかの理由があるので、解決策を考えている。
- 山崎会長：保護者のアンケート提出率が61.2%ということで、未提出の保護者も多くいる。未提出の理由は把握しているのか。
- 石井校長：一昨年までは紙でアンケートを実施し、提出率が9割を超えていた。集計のしやすさから、Google formでの回答に方式を変更したところ、昨年は30%台に下がった。今年度は紙とLINEの両方でお知らせをして改善を図った。来年度は、さらに改善を図りたい。
- 萩原委員：海老名市のLINEの中で柏小の連絡がくるから、どんどん埋もれていく。
- 鈴木委員：海老名市の連絡の中にまぎれてしまう。学校だけのLINEがあるとよい。
- 山崎会長：大事なことを発信しても、受け取ってもらえないかもしれないという心配も出てくる。改善の手立てを考えたい。
- 森田委員：子どもたちへの「困ったことや悩みがある時には、誰かに相談していますか」という問いで、否定的な回答をした子たちが不登校につながることを願う。以前、教育長が、自分が着任してから不登校児童が3倍に増えたと言っていた。柏小の現状を教えてほしい。
- 石井校長：残念ながら不登校児童が5～6人いる。完全不登校にならないように、学校とのつながりが切れないようにできる限りの努力をしている。その取り組みの一つが「ぽかぽかルーム」である。「ぽかぽかルーム」の利用者は増えている。それは、学校には来れても教室には入れないということなので、原因を分析するとともに、どういう形なら登校できるのか様々な方法を提案している。
- 高橋教頭：12月に、ある児童の保護者から登校に不安を抱えているという相談があった。理由を聞くと、教室に入るのは難しそうだったので、それ以外の登校方法を提案した。本人の希望で「ぽかぽかルーム」を利用することになり、初日は付き添った。1日利用すると、登校に対して自信がつき、現在まで利用が続いている。

藤原委員：「ぼかぼかルーム」を利用している子どもたちには、学校生活を楽しんでもらいたい、笑ってほしいという気持ちで指導している。子どもたちは、学校に来たい、友だちと話したいという気持ちをもっているので、その気持ちを大事にしたいと思っている。子どもたちは、いろいろな形でサインを出しているので、その瞬間ごとの気持ちを最優先している。

鈴木委員：周りの子は、どういう反応をしているのか知りたい。

藤原委員：周りの子たちには、「ぼかぼかルーム」に来ることを特別なことだと捉えてほしくないし、誰でも使ってい部屋だと認識してほしいので、オープンにしている。周りの子たちは、「ぼかぼかルーム」を利用しているからには、それなりの事情があるのだと、みんな理解してくれている。「ぼかぼかルーム」を利用している子に会うために、休み時間に入室する児童もいる。それがきっかけで、教室との関わりが増えることもあるので、クローズにしないことを心掛けている。

③学校経営方針について

石井校長：アンケート結果や実態を踏まえ、方針は昨年度と大きく変わらない。毎年インクルーシブな学校を作りたいと示してきたが、「すべての子どもが大切にされる」とは、①自分らしさを否定されないということ、②集団から排除されないということだと考えている。自分らしさを否定されないとは、自分を理解して自尊感情をもっているということ。自分が好きで、自分を大切に思うという気持ちを育てたい。集団から排除されないとは、色々な人がいて集団は成り立ち、誰一人排除される人はいないのだということ。社会には色々な考えをもった人がいて、みんなが大事な存在なのだとして肌で感じてほしい。そのために縦割り活動を行っている。来年度は1年生が1クラスしかなく、小規模化がさらに進むが、だからこそやれることがある。縦割り活動をすることによって、クラス以外の子との関わりを増やし互いに助け合い支え合う学校にしたい。教科交換の充実については、先生方も色々な人がいるので、色々な考え方に触れてほしいという願いがある。また、困ったことが起きた時、相談する窓口が増えることにもなる。

高橋教頭：中学を見据えての教科担任制でもあるが、担任とは別の視点から見た子どもたちの様子を共有し、学級・学年経営にいかすことができる。

青山教務：様々な学年の授業をもつことで、子どもたちのことを知ることができる。

石井校長：同じ授業を複数回行うことで、授業力向上も期待できる。

山崎会長：「教科交換の充実」のねらいに示されている「学級経営力の向上」につながるとはどういうことか。

石井校長：隣のクラスで教えると、自分のクラスとの違いに気づき、互いに学び合う機会になる。

鈴木委員：以前は算数の授業をレベル別で行っていたこともあったが、今後はやる予定があるか。

石井校長：算数は積み重なっていく要素が強い教科。人数・単元・場面によって、習熟度別になることもある。

萩原委員：先生方にとっても働き方改革になってよい。

松本委員：会社だと「成果」がはっきり出るが、学校は見えづらい。人を育てるとするのは難しいことである。どのように評価しているのか。

青山教務：数値的なもので測り、客観的な資料として集めるために様々なアンケートは行っている。また、我々の目を見た子どもの変化も大事にしている。しかし、それだけでは偏りが出るので、こういった場を設け、総合的に判断していくしかない。

鈴木委員：娘は、おまつりのボランティア依頼があると行きたがる。数値化は難しいと思うが、「遊びに行きたい」「手伝いに行きたい」と卒業生に思ってもらうことが、のちのちの評価になると思う。

青山教務：卒業生が「あそびっ子」のパートナーやキャリア教育の講師になったり、柏小まつりでブースを担当してくれたりする現状をみると、今までやってきたことは大きくずれてはいないのではないかと思う。

松本委員：キャリア教育では年齢に関係なく様々な職業の人に来てもらうとよい。

山崎会長：グランドデザインに「地域行事への保護者・児童・教職員の参加」とあるが、先生方には、柏小学区の地域行事に参加するよりも、ご自身がお住いの地域の行事に参加してほしい。ぜひ、お住いの地域で活動することを優先していただきたい。

森田委員：以前の運営協議会で、先生方の働き方改革が話題にあがったが、最近の様子はどうか。

石井校長：休日出勤している職員はいるが、一人ひとりライフステージが違うので、それぞれに合った働き方がある。自分の生活を大事にしてほしい。

(4) その他

森田委員：3月1日に東柏ヶ谷地区の合同自主防災訓練を行う。小さいうちから防災教育に関わってほしい。

5 事務連絡

○第62回卒業証書授与式について・・・3月19日（木）9時30分

○学校運営協議会委員の任期終了について

○令和8年度学校運営協議会日程について

第1回・・・6月20日（土）10:00・・・柏小まつり

第2回・・・10月2日（金）10:25・・・音楽会

第3回・・・2月11日（木・祝）10:00